

(陳受19第18号)

都道調布保谷線の車線数に関する陳情

受理年月日

平成19年 9月25日

陳情者

武蔵野市境南町1-4-2

武蔵野・三鷹3・3・6号線を考える会

清本 和子 他340名

陳情の要旨

私たち武蔵野・三鷹3・3・6号線を考える会は、この十数年のあいだ住民アンケートの結果を踏まえて、地権者の生活再建問題、沿線住民の生活環境や玉川上水の自然環境、大気汚染や騒音問題等について、武蔵野市や東京都と交渉を行ってきました。また、都道調布・保谷線関係市民団体や府中・所沢線関係市民団体とともに、東京都から提出された道路関係資料を分析し検討を行ってきました。

私たちはこれらの道路建設が「多摩地域の南北交通の混雑を解消し、大気汚染を解消するためのものであり、将来の交通量は増加する。」と主張する東京都の道路建設資料とその説明の検証のため、都が計画する調布市多摩川原橋から西東京市北町までの南北道路に並行する3本の既存道路を朝、昼、夜の3往復、総延長257.35キロメートルにわたって実際に走って交通の流れを測定しました。また、武蔵野市と三鷹市にある14の交差点の交通量、JR中央線五宿踏切の下り線が高架になる前と後の交通量も測定しました。

その結果、都が渋滞基準としている時速20キロメートル未満での走行は、全走行距離の15%に過ぎず、残りは時速32キロメートル超で走行可能でありました。また、交差点の交通量は平成6年に比べて平成15年では10%から50%も減少していました。また、近年の自動車保有台数は横ばいもしくは減少傾向にあることが東京都の資料によっても明らかであります。五宿踏切は下り線が高架になっただけで交通流が大幅に改善されたのは周知の事実です。

地球温暖化対策や自動車公害から住民の健康、生活環境を守るためには、交通量を抑制すべきです。私たちは4車線の車道を停車帯付の拡幅員2車線にすることを、平成19年8月28日東京都建設局に求めました。

武蔵野市議会におきましても、都道調布保谷線の2車線問題について採択いただき、東京都に働きかけていただきますよう陳情いたします。